



TITLE:

『中國見聞記』 補記

AUTHOR(S):

島田, 虔次

CITATION:

島田, 虔次. 『中國見聞記』 補記. 東洋史研究 1961, 20(1): 86-86

ISSUE DATE:

1961-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/148204>

RIGHT:

が、いま問題としているのは「課」の一字のみをあげた場合についてであり、課調と熟したものに等についてはしばらく論外におく。

- (27) 三調については、古賀登「南朝租調攷」史學雜誌六八の九、参照。

- (28) このほかに、晉書三四・杜預傳にのせられた利國救邊の上前のなかに、定_二穀價_一。較_二鹽運_一。制_二課調_一。とあるのや、同一二七・慕容德載紀に、公避_二課役_一。擅爲_二姦宄_一。の語がみえるがこれらは課が單獨に使用されて、課だけで税・役の意味をもつものではないから、いまは除外して考えている。

- (29) 代表的なもののみをあげると、漢書八九・循吏・龔遂傳。同八、宣帝紀、地節四年九月詔。同、黃龍元年正月詔。同九年中、王莽傳。後漢書五五・卓茂傳。同六二・樊宏傳。同樊準傳。同一〇九上・儒林傳下。續漢書百官志、鄉亭の條引漢官儀。後漢書五一・李忠傳。魏志一六・吳璠傳引魏略。吳志三・孫休傳。晉書八八・孝友傳・顏含傳。同四六・劉頌傳。同四七・傅玄傳。等によつて徴し得る。

- (30) 通典、食貨田制上には其丁男とある。
勸課農桑、課督農耕等の事例は、拙稿「漢代の勸農政策」、史林四二の三、および「勸農政策と占田課田」、史林四一の二に多くの用例を擧げてあるから参照されたい。

補注。本文中、藎寇將軍の「藎」に艸冠のあるものとなひものと二種類があるのは、敦煌文書には艸冠があり、現行魏書にはそれがないことから生じた不統一であることを付言しておく。

『中國見聞記』補記

前號、見聞記の末尾、北京の中國歴史博物館の列品に言及して『甘肅武威縣出土の儀禮木簡（儀禮七篇が完整なる形で出た。）』と書いたのは誤解をまねきやすいが、七篇は十七篇の誤植もしくは誤記ではない。實はあれは光明日報（今年一月一八日）の『它是七篇完整的儀禮』という言葉を用いたのである。（當時の私のノートには儀禮士相見禮木簡、甘肅武威、一九五九年出土、とたったこれだけしか書いてない）ありていにいえば、詳細はすでに『文物』か何かで報道済み、大してニュースでもなからうと思つていたが、必ずしもそうでないらしいので、念のため補記しておく。『考古』一九六〇・五號にすでに『甘肅武威磨咀子六號漢墓』という報告および木簡多數の寫眞が出てゐるが、それによると、後漢の土洞墳墓より一括出土。殆んどが木簡、竹簡は少い。完整なもの三八五片、殘簡二二五片。短簡は九片のみ、禁忌の類を記す。長簡は5.4-5.8×0.8-1.0cm、每片80-80字、每片、捆編の迹が平均して四條、かつベージ數の號嗎を付す。士相見16服傳23特性飢食49牢飢食49有司徹73燕禮88大射101（數字は簡數）『其中僅有士相見一篇、保存完整、其餘六篇均有損失』とある。なお、光明日報今年三月一五日には同じ武威出土の但し儀禮でない木簡一〇片の摹本が出てゐる。

（島田虔次）